

これは足助担当の「幾何学 III」（水曜 3 限）に関する注意事項をまとめたものである。不備に気づくなどして訂正することがあるので、右上の日付に注意すること。

・講義の内容について

講義中に講義の内容を全て理解することは基本的には不可能だと考えておくが良い。特に初学の場合にはそうである。講義について「何を言っているのかさっぱり分からない」のは大きな問題ではない。復習して分かれば十分である。逆に、すっかり分かってしまうのであれば、それは講義に来る必要がないということである。予習は次の講義に現れそうな用語を眺める程度で良いが、復習は必須であると考えておくこと。

・講義中の会話について

例えば板書に関する事など、講義に関する会話は構わないが、他の受講者や講義の妨げにならないように配慮すること。私語は厳禁である。質問は遠慮無くすること。

・演習問題について

演習問題は UTOL を用いて配布する。解答は原則として配布しない。理由は講義で述べる（述べた）通りである。実際には次のようにすることを勧める。

- 1) まずは自力で解いてみる。その際、必ずしも一人で解く必要はない。同級生や友達と一緒に考えてみるのも良いことである。
- 2) 参考書や、講義で扱っている定理などに似たものが見つかるはずである。その証明や説明を問題に合わせてうまく改変したり、組み合わせたりするのも一つの手である。どうしても分からない場合には、まず自分なりにはどこまで分かるのか、何が分からないのか整理してみると良い。何が分からないかはっきりすると、その時点で問題が解決することも少なくない。
- 3) それでも分からなければ、足助なり、場合によっては他の先生に質問すると良い。4 ができた時点で何が分からないか、大分はっきりしているはずである。

・板書を撮影することについて

特に禁止はしないが、手を使ってノートを起こした場合と脳に対する刺激が異なることには注意せよ。撮影に際して音を立てることは厳禁する（場合によっては退出を求める）。撮影以外でも、例えばスクリーンショットを取ると同様の音が出る場合があるので注意すること。音を立てない方法が分からない場合には撮影などは断念すること。また、撮影して得られたデータは、いかなる形においても不特定多数の者が入手できる状況に置くことを固く禁止する（一次配布、二次配布以降を問わない。誰かにデータを提供する場合には十分注意すること）。これらが遵守されない場合には一切の撮影を禁じることがある。撮影に関する便宜は一切図らない。著作権や（特に学生の）肖像権を初めとする種々の権利に関する問題が生じる可能性があることに注意せよ。問題が生じた場合、解決は全くの自助努力に委ねられる。条件や状況は必ずしも同じではないが、例えば教員が自身の講義を撮影する場合でも、学生や教員などの安全をある程度確保することなどを目的として一定の（それなりに面倒な）手続きを踏む必要がある。事実としては参考になると思う。

・教科書について

特定の教科書は用いない。

(以上)